

挑む!

女性向け恋愛ゲームを開発した

しらとり ゆうき
白鳥 有葵さん(30)

画面越しじわじわ縮まる恋を



ゲームソフト開発会社「カプコン」

(本社・大阪市)で、女性向けの恋愛ゲーム「囚われのパルマ」の開発に携わった。配信直後、スマートフォンの有料ゲームダウンロード数で1位になり、関連グッズの売れ行きも好調だ。

ゲームの舞台は孤島の収容施設。記憶を失い、心を閉ざす青年に「相談員」として面会し、関係を深めるという設定だ。スマホの画面越しに手を合わせたたり、メッセージをやりとりしたりして、青年の心を開かせていく。

千葉県出身。美大を卒業後、09年にカプコン入社。ゲームの企画をするプランナーとして、人気ホラー「バイオハザード」シリーズなどに携わる。

4年前に部内で企画を提案すると、女性4、5人が賛同して集まった。社内公募で最優秀賞に選ばれたが、開発に着手するまで約2年かかった。約10年ぶりの女性ゲームの開発をためらう会社側に女性プレイヤーのニーズを粘り強く訴え、実現にこぎ着けた。

美大生のときに映画を撮影し、その道に進むことも考えた。だが、幼いころから親しんだゲームは、自分の人生にとって特別な存在だった。「驚き、うれしさ、悲しみなど、あらゆる感情をゲームからもらった」

既存のゲームのような「正解」と「不正解」でなく、2人の心の距離がじわじわと縮んでいくような、リアルな人間関係をゲームで表現したかった。「5年後、10年後も、『彼ら』との恋が心の中に残っていてくれたらいいな」

文・写真 新田哲史

記者から

男性向けの硬派なゲームが多いカプコンで、自分の思いを貫いた。次回作も楽しみだ。